

穂積秋田市長へ枝豆の生育を報告

8月1日(月)、佐藤広美組合長ら役職員が秋田市役所を表敬訪問し、穂積志市長に今年産の枝豆の生育や販売情勢などを報告しました。

穂積市長は当JAから今年は例年より製品率がが高く高品質なことや、生産者の栽培技術が年々向上していること、基盤整備に伴う法人化などで新たに枝豆に取り組む人が増えていることなどを聞き、笑顔を見せました。秋田市雄和産の「おつな姫」を試食すると、「色がとてもよく、味もおいしい」と太鼓判を押しました。

市内農業に関する情報も交わり、新規就農や水田活用の直接支払交付金、スマート農業や農村部のにぎわい創出などの話題が上がりました。

今年産の枝豆の味を確かめる
穂積市長



秋田赤十字乳児院へメロン、スイカ、タオルエプロン贈呈

8月3日(水)、当JAと女性部から秋田赤十字乳児院に管内産のメロン10玉と大玉スイカ2玉、女性部員から集まった未使用タオルで作ったエプロン315枚を贈りました。同院への農産物の贈呈は今回で11回目、子どもたちへ地元の農産物への理解を深めてもらおうとともに同院を支援し、SDGsの達成も目指します。

吉田文勝副組合長は「子どもたちに農家の心がこもった地元の農産物を食べてもらい、素直に育ってほしい」と呼び掛け、女性部の佐々木早苗部長は「コロナ禍で思うように活動できない中でも、工夫して子どもたちへの支援を続けていきたい」と話しました。

メロンなどを贈呈する
吉田副組合長ら



NEWS & TOPICS

男鹿市農業法人協議会研修会

8月5日(金)、男鹿市農業法人協議会の研修会が男鹿地区営農センターを会場に開かれました。佐藤広美組合長が同市内で農業生産を行う法人の代表らに、JAと管内農業を取り巻く課題や事業実績などをふまえながら、当JAで行っている営農支援策などを講演しました。

佐藤組合長は「役職員の連携やアイデアを生かして、生産振興に励んでいきたい」と話しました。主食用米の需要低迷や農業資材の高騰などの昨今の情勢に触れ、コスト削減対策やJAの経営管理についても解説しました。参加した農業法人からは単収向上や面積拡大への支援、土壌診断の体制の充実などを望む声が上がりました。

生産コスト削減対策などの
話題が上がりました



梨の収穫・出荷スタート

今年産の梨の収穫期を迎えました。8月25日(木)から天王梨選果場が稼働し、追分地区の出荷が29日(月)から、男鹿地区では9月2日(金)からスタートしました。共販対策会議や目揃え会が出荷開始に先立って行われ、生産者が今年産の梨の色付きや糖度などを確認し、出荷基準を話し合いました。

昨年、一昨年は霜害や雹害で収穫量が減少しましたが、今年は大きな被害がなく、出荷量が回復する見込みです。当JAでは「幸水」をはじめ「豊水」「かほり」「秋泉」などを県内や関東、東海方面へ出荷しており、選果場2か所からは前年比27.4トン増の598トンの出荷を計画しています。

梨の熟度や傷の程度を
確認する生産者

